

(委員長)

(局長)

(委員長)

(山本副委員長)小川さんから豊かと思わないで欲しいとあったが事務局と委員の意見は、ずれている気がする。

行政は福祉に冷たい。

ボランティアや福祉について富士見平区で勉強した。SKクラブの中で「区内の福祉活動に限る」と話し合った。

全国社協活動内容を知っている。倉敷社協・安城社協、どちらも地区社協がある。

福祉はどこに焦点が当たるか。

(望月委員)今日、隣組長が社協会費集めに来た。日赤社資もそうだが、やらない人が増えている。自分の班は自分だけ。班長も「そういうことはやらない」と言った。

どうしてそうなるかという理解が進んでいないからだと思う。もっと理解できるようPRすることが大切。

「全区に福祉推進委員会を」という目標に向け、区長がやらないのなら民生委員が担ってすすめて行くしかない。その民生委員のなり手がいない。

(中山委員)前回は具体的な文言についての議論だったが、今回は具体的な文言がなく議論は難しい。

乙女区の民生委員が辞任した後、やってくれる人が見つからない。区の役員会でも「そんなもの必要あるの?」という意見が出た。

区費、社協会費、共同募金は払わない人が、東日本大震災の時は払ってくれた。こういうことです。

紙一枚の回覧では良くなっていかない。

(三島委員)私の所属する団体は若い世代の保護者中心の団体。社協会費の話にもあったが、PTAも無関心な人がたくさんいる。

(望月委員)小諸市は民生委員110人中7割が新任。全国はその反対。任期の3年が経つとほとんど入れ替わって継続性がない。全国の民生委員は1期終わると「やりがいがある」と感じる。小諸市の民生委員は1期終わると「大変でもう嫌だ」と感じる。市内の民生委員が去年は2地区で決まらなかった経過あり。

(松本委員)地域づくりに公民館の果たす役割は大きいと思っている。今は『個』で生活できる。『個』で満足できる時代になっている。10年後、20年後の地域を数字で出されても実感できない。でもその時になってでは遅い。

(福島委員)会議をするのは大事だが、それが実行されるのか懸念していた。

(牧野委員)高齢者クラブの立場からすると、この理念は良いと思う。理想的な面もあり、不満もあるが。地域のクラブが消滅したり、若い人が入りにくいということもある中で、維持

も大切。

(委員長)『やります宣言!』とあるが、地域は病んでいるのに本当にできるのか。住民が主役で、社協や行政がサポートできるんだと伝えられればいいと思う。

(西川委員)昔に比べると情報は早いけど、若い人は紙を見るのか。家に届いてもこう(ポイっと捨てる仕草)。

趣旨がわかるように説明しないと。マンネリ化した紙を出しても…。紙では伝わらない。相手にわかるように話さなくては。

(坂本委員)こんなことが出来たらいいなと思っていることがある。社協に会費を納めさせるのに、区長や民生委員、公民館長の言葉を入れて「どういうことに使っているか」「どういうことが助かっているか」を細かく何回かに分けて書いてもらう。会費を納めなくなる雰囲気が出来たらいい。ただ隣組長が紙を持ってきて、だと…。

(山本副委員長)先日区内で社協会費について話した。会員ではないと払ってはいけなくて、思っている人が多く、説明書がついていても読まない。請求書が来た人だけ払うと思っている。寄付行為の方がいいと思う。

(牧野委員)それは日赤社資の話では？

(山本副委員長)社共会費と勘違いしていた。

(局長)日赤社資と社協会費について説明。

(委員長)そもそも社協はなぜできたのか。市以上はあれば望ましい。町村はなくても良い。介護保険制度が出来てから社協は増えてきたが、社協は何をやるのかがとてもあいまい。スタートラインに立って「社協は何をするか」理念を決めて振り返っていったらどうか。

(福島委員)トップセミナーに参加して、地域が社会福祉の意識が高いと思った。社協が柱になって中心になっているように言っているが、必ずしもそうでない気がする。社協に情報が集まっていない。

(委員長)「どうやったら会費が集まるように伝わるんだろう」と考えるのが大事では。サイレントプアのドラマのようにソーシャルワーカーが社会に入り込んでいく姿が社協のあるべき姿ではないか。住民主体ということを盛り込んだらどうか。

(山本副委員長)地域に団体がないとダメではないか。近隣の古城区や新町区から学んだ。区内のボランティア団体は親睦を重ねる中で各々がどういうことに長けているかわかってきた。福祉委員という名前だけでは誰も集まらない。遊びのクラブだと伝えて人を集める。その会の中で問題点を話し合った。現状だといざと言うとき会員である自分達の間でしか連絡が取れない。これでは助け合いの会ではない。災害時は自分のこと優先になってしまう。

(委員長)基本理念について議論していただきたい。

(山本副委員長)これなら文句ない。誰にでもわかるのではないか。

(望月委員)良いと思う。こういうふうに出て上がっていると文句のつけようがない。

(相良委員)誰にでもスッと入る、希望も持てる文章になっていて良いと思う。

(小川委員)私も昨日意見を言ったが、地域福祉の輪を広げますという言い方が感動した。はこべ会に80歳の父と50歳の障がいを持った子どもさんの家族がおり、「この子を残しては逝けない」という思いの中、遠い親戚より近くの他人に助けてもらわないと生活していけない。

(局長)アンケート結果を分析したところ、身体障がいについては比較的理解が進んでいるように思う。精神障がいや知的障がいについてはまだまだの部分があるので、これから理解が進むように努めたい。

(西川委員)この理念でいいんじゃないか。

(委員長)皆さん賛成のようなので、事務局案を委員会案に。

(委員長)第2章について議論いただきたい。

(局長)事務局にて数値目標を入れる必要があるかを議論したのがこの案。数値目標が必要か否か議論していただきたい。

(西川委員)事務局が持っていればいいのではないか。

(中山委員)文言的には何も表現しないのか。数年後〇割にしたいとかそういう事を入れた方がいいと思う。数値は入れなくてもいいが。

(山本副委員長)市民のほとんどは福祉推進委員会があるとは知らない。

(西川委員)今のような数字はあったほうが良い。1年は隠しておいてもいいと思う。1年経って「こういう数字だから協力して」と声をかけたらどうか。

(山本副委員長)それをやるなら市と連動してもらいたい。社協は民間団体だが、市民は市の付属だと思っている。もっと民間だと宣伝して市から予算を出してもらいたい。今のところどこまで進んでいるのかわからない。

(福島委員)検証はどのようにするのか。それによって必要性が変わるのではないか。

(山本副委員長)スケジュール表を作るのか。作らなければPDCAサイクルにならない。

(望月委員)こういうところで目標の議論はしないのか。

(山本副委員長)

(牧野委員)社協では数値的なものをきちんとつかんでいる。

(西川委員)報告してもらわないとまずいでしょう。

(山本副委員長)社協の思いと委員の思いは、ずれている。

(松本委員)これは5年間かけてやる事業なのか。5年間で目標にどれだけ近づけるのか。5年間でマップを作ったからといって地域のつながりは深まるのか。

(山本副委員長)区で組織を作るには、市のバックアップが必要なのでは。

(松本委員)マップを作った後、組織を作った後、が大事なのではないか。

(山本副委員長)市にも福祉の予算を挙げてくれと要求したが市長は「もう福祉に対する予算は十分だ」という内容の返答だった。実際は不足しているのだから社協は対応できないと思

う。

(竹中委員)事業名はすべての事例に入ってくるのか。

(次長)具体的に名前を挙げる予定。

(委員長)内容に関しては議論の余地があるが、枠組みは OK ということで良いか。

(委員長)数値目標はあったほうが良いかに絞って議論いただきたい。

(三島委員)開示はした方がよいのではないかと。後日見せてもらう形でもよいと思う。

(山本副委員長)他市の社協では中学校区で区分けしているところが多いが、そういう区分けはしないのか。

(山本副委員長)4 ページの(2)基本視点①に「今できていることを大切にする」とあるが、今できていることに〇〇を追加する。

(望月委員)途中で止まっているので、もう少し先の視点まで入れた方がよいのではないかと。

(三島委員)④に年齢、国籍…とあるが、小諸市在住の外国人も含まれているのか。

(事務局)その通り

(三島委員)日本語分の配布のみで良いのか検討が必要では。